

鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報
20

平成16年度

鹿児島大学埋蔵文化財調査室

2005年7月

序

2005年6月1日をもって、鹿児島大学埋蔵文化財調査室は、20周年を迎えることとなりました。本調査室では、過去20年間に、発掘調査35件、試掘調査27件、205件の立会調査を行い、これらから得られた遺構・遺物の情報の資料整理を行い、年次報告としての『埋蔵文化財調査室年報』を刊行してきました。また、発掘調査に際しては、広く市民に情報を還元するために、発掘調査見学会を開催し、様々な方法で、埋蔵文化財を包蔵し、調査研究し、市民へと還元する大学であるということを発信してきました。

しかしながら、本来速やかに報告しなければならない発掘調査報告書は、毎年の発掘調査件数、整理作業の人員の問題、財政上の問題から、これまではやむを得ず、過去の発掘調査を年報の付編として掲載してきました。

今年20周年を迎え、心機一転して、前年度の事業報告は年報に、発掘調査報告書は報告書として刊行し、埋蔵文化財に携わる機関としての社会的責務を果たすことにしました。

鹿児島大学のキャンパスには、いまなお多くの貴重な埋蔵文化財が眠っています。学内埋蔵文化財の調査事業の円滑な実施のため、また、鹿児島大学がキャンパス内だけでなく、郷土の埋蔵文化財を大切にする姿勢を社会にアピールするために、関係者皆様方のご協力とご支援をお願い申し上げます。

平成17年7月

鹿児島大学埋蔵文化財調査室長

新田 栄治

例 言

1. 本年報は、鹿児島大学構内において、鹿児島大学埋蔵文化財調査室が2004（平成16）年度に行なった調査成果をまとめたものである。
2. 本書に掲載している試掘調査及び一部の立会調査は、鹿児島大学埋蔵文化財調査室が担当した。調査時における図面・写真の担当は Tab.1の通りである。
3. 本書の作成は、埋蔵文化財調査室員新里貴之が行なった。
4. 郡元団地 D・E-5 区（農学部校舎改修に伴う試掘調査）の出土遺物について、陶磁器は渡辺芳郎氏（鹿児島大学法文学部）のご教授をいただいた。
5. 本書で報告している遺物の保管は、埋蔵文化財調査室の管理のもと、学内の各部局が収蔵している。また、図面・写真などの資料は埋蔵文化財調査室に保管している。

凡 例

1. 昭和60年6月1日の埋蔵文化財調査室の設置を機として、鹿児島大学構内におけるこれからの埋蔵文化財調査室に便であるように、鹿児島大学構内座標を郡元団地と桜ヶ丘団地（旧宇宿団地）に設定した。その設置基準は、以下の通りである。
 - (1) 郡元団地では、国土座標第2座標系（ $X = -158,200$, $Y = -42,400$ ）を基点として一辺50mの方形地区割りを行なった（Fig. 1 参照）。
 - (2) 桜ヶ丘団地では、国土座標第2座標系（ $X = -161,600$, $Y = -44,400$ ）を基点として一辺50mの方形地区割りを行なった（Fig. 2 参照）。
2. 本年報において報告を行なった地点については、Fig. 1・2にその位置を記してある。
3. 本年報におけるレベル高は、すべて海拔を表し、方位は真北方向を示す。
4. 土層の色調は『新版標準土色帖』（農林水産技術会議事務局監修）を使用した。
6. 遺物に関しては観察表を作成した。その標記、表現については以下の通りである。

調整：調整名称の前の（ ）は、調整方向を表す。（—）；横位方向，（|）；縦位，（\）；左上がりの斜位，（/）；右上がりの斜位，（?）；方向不明，とした。→は、調整の新旧関係を表す。

色調：『新版標準土色帖』（農林水産技術会議事務局監修）を使用し、この色調に当てはまらないものについては、「～に類似」と表記した。

胎土：粒子の大きさで、礫（2mm～）・粗砂粒（1～2mm）・砂粒（0.2～1mm）・細砂粒（0.2mm以下）に分けた。また、砂粒の種類については、特定できないものは、その色調で表記した。胎土中の砂粒の多さについては、便宜的に1～9の9段階に分けた。9：20%以上，8：15～20%，7：15%前後，6：10～15%，5：10%前後，4：5～10%未満，3：5%前後，2：1～5%未満，1：1%以下，とした。
7. 本文中の遺物番号は、挿図、図版、遺物観察表と一致している。

本文目次

鹿児島大学埋蔵文化財調査委員会規則	1
鹿児島大学埋蔵文化財調査室規則	1
I. 平成16年度の調査概要	3
II. 平成16年度の試掘調査	
2004-1 郡元団地 D・E-5 区（農学部改修）に伴う試掘調査	3
III. 平成16年度の立会調査	
1. 2004-A 鹿児島大学病院第二患者駐車場増設工事	9
2. 2004-D 鹿児島大学本部地区ガス漏れ修繕工事	10
IV. 遺物整理	10
V. 年報作成	10

鹿児島大学埋蔵文化財調査委員会規則

(趣旨)

第1条 この規則は、国立大学法人鹿児島大学常置委員会規則（平成16年4月1日制定）第3条第3項に基づき、国立大学法人鹿児島大学埋蔵文化財調査委員会（以下「委員会」という。）に関し、必要な事項を定める。

(組織)

第2条 委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 鹿児島大学埋蔵文化財調査室長（以下「調査室長」という。）
 - (2) 各学部の教授、助教授又は講師のうちから選出された者 各1名
- 2 前項第2号の委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員を生じた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(審議事項)

第3条 委員会は、次に掲げる事項について審議する。

- (1) 調査実施計画に関すること。
- (2) 埋蔵文化財調査室の予算に関すること。
- (3) その他埋蔵文化財の業務に関すること。

(委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、第2条第1項第1号をもって充てる。

- 2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代行する。

(議事)

第5条 委員長は、委員の過半数の出席をもって成立し、議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数の場合は、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第6条 委員会が必要と認めるときは、委員以外の者を出席させ、意見を聴くことができる。

(事務)

第7条 委員会に関する事務は、施設部企画課において処理する。

(雑則)

第8条 この規則に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

附則

- 1 この規則は、平成16年4月1日から施行する。

鹿児島大学埋蔵文化財調査室規則

(趣旨)

第1条 この規則は、鹿児島大学学則（平成16年4月1日制定）第7条第2項の規定に基づき、鹿児島大学埋蔵文化財調査室（以下「調査室」という。）に関し、必要な事項を定める。

(目的)

第2条 調査室は、鹿児島大学（以下「本学」という。）の埋蔵文化財の調査に関する業務を行い、本学内に存在する埋蔵文化財の保護対策を講ずることを目的とする。

(業務)

第3条 調査室は、次の業務を行う。

- (1) 調査実施計画の立案
- (2) 発掘調査、分布調査および確認調査
- (3) 調査報告書の作成
- (4) その他必要な事項

(職員)

第4条 調査室に、次の職員を置く。

- (1) 調査室長（以下、「室長」という。）
- (2) 主任
- (3) その他必要な職員

第5条 室長は、本学の考古学に関連する教員の中から国立大学法人鹿児島大学学内共同施設等人事委員会（以下「委員会」という。）が推薦し、学長が選考する。

- 2 室長は、調査室の業務を掌理する。
- 3 室長の任期は2年とし、再任を妨げない。
- 4 室長に欠員を生じた場合の補欠の室長の任期は、前任者の残任期間とする。

(主任等)

第6条 主任は、調査室の職員の中から、特に埋蔵文化財に関する専門知識を有する者を委員会が推薦し、学長が選考する。

- 2 主任は、室長の命を受けて調査室の業務を処理する。
- 3 職員は、調査室の業務に従事する。

(事務)

第7条 調査室に関する事務は、施設部企画課において処理する。

(雑則)

第8条 この規則に定めるもののほか、調査室
に関し必要な事項は、別に定める。

附則

- 1 この規則は、平成16年4月1日から施行する。
- 2 この規則施行後、最初の室長は学長が指名した者をこの規則により選考したものとみなす。

・鹿児島大学埋蔵文化財調査委員会委員（平成17
年4月1日現在）

委員長 新田栄治（埋蔵文化財調査室室長）
委員 本田道輝（法文学部）
日隈正守（教育学部）
井村隆介（理学部）
岩橋法雄（医学部）
山崎要一（歯学部）
八野知博（工学部）
佐々木修（農学部）
佐野雅昭（水産学部）
山崎要一（大学院医歯学総合研究科）

・鹿児島大学埋蔵文化財調査室

室長（併） 法文学部教授 新田栄治
主任 助教授 中村直子
助手 新里貴之
技術補佐員 有村航平
篠原美智子

I. 2004 (平成16) 年度の調査概要

鹿児島大学埋蔵文化財調査室では、周知の遺跡『鹿児島大学構内遺跡』であるキャンパス内の掘削工事に伴い、発掘調査を実施している。その際、大学施設部を通じて事務手続きを行ったうえで、発掘調査、試掘調査、立会調査を実施してきた。埋蔵文化財調査の対象地域である大学キャンパス・施設として、「郡元団地」(縄文時代前期～近世・近代)、「桜ヶ丘団地」(後期旧石器時代～古墳時代前期)、「唐湊学生寮」(縄文時代後期)、「入来牧場」(縄文時代)、「附属養護学校」(近世)などがある。

2004 (平成16) 年度の埋蔵文化財調査室の事業としては、試掘調査1件、立会調査8件、遺物整理作業、年報作成事業を実施した (Tab.1)。なお、2004 (平成16) 年度より鹿児島大学の独立法人化に伴い、立会調査における調査主体者の変更があった。

以下にその概要を述べる。

Tab.1 2004 (平成16) 年度事業一覧

事業種	調査コード	調査	地区	名称	調査者	包含層の有無	期間	備考
試掘調査	2004-1	郡元団地	D・E-5	鹿児島大学農学部校舎改修に伴う試掘調査	中村・新里・有村・青山	●	2004/11/8-10,16-22	大学祭のため、一時中断
立会調査	2004-A	桜ヶ丘団地	C-3	鹿児島大学病院第二患者駐車場増設工事	中村・新里	●	2004/5/10,6/1	
	2004-B	郡元団地	G-4	鹿児島大学金鉱石移設工事 (総合研究博物館)	青山	×	2004/8/5・9	
	2004-C	郡元団地	I-5	鹿児島大学 (理工系) 総合研究棟新営電気設備工事	有村	×	2004/6/30	調査室に連絡なし
	2004-D	郡元団地	F-4, F-I・M-6, J-10・11	鹿児島大学本部地区ガス漏れ修繕工事	有村・青山・新里	●	2004/8/26,9/3・15・16, 10/6・7	緊急
	2004-E	郡元団地	N・O-7	鹿児島大学郡元団地武道場新営工事	市教委: 佐々木・藤野	×	2004/9/2	施設部: 長野
	2004-F	郡元団地	F-5	鹿児島大学本部地区水漏れ修繕工事	青山	×	2004/9/8	緊急
	2004-G	桜ヶ丘団地	J-O-6・7	鹿児島大学 (桜ヶ丘) 基幹整備 (機械設備) 工事	市教委: 田中・出口	×	2005/1/24	有村
	2004-H	郡元団地	K・L-6・7	鹿児島大学郡元団地学環境改善整備工事	市教委: 藤野	×	2005/2/22	新里
整理作業	93-1	郡元団地	K-6	鹿児島大学郡元団地 (中央図書館) 遺構出土遺物整理作業 (二次調査: C地点)	青山・有村	-	2004/4/1-2005/3/31	
	95-1	郡元団地	K-5	鹿児島大学郡元団地 (中央図書館) 遺構出土遺物整理作業 (三次調査: D地点)	青山・有村	-	2004/4/1-2005/3/31	
	95-1	郡元団地	L-5	鹿児島大学郡元団地 (中央図書館) 遺構出土遺物整理作業 (三次調査: E地点)	青山・有村	-	2004/4/1-2005/3/31	
刊行物				埋蔵文化財調査室年報19作成	中村・新里	-	2005/3/31発行	2005/4/15送付

II. 試掘調査

2004-1 郡元団地 D・E-5 区 (農学部校舎改修) に伴う試掘調査 (Fig.1・3-6, Tab.1・2, PL.1-4)

鹿児島大学ではPFI事業に伴い、郡元団地農学部において校舎改修事業を行う予定がある。農学部においては土層データに乏しかったため、2004年11月8～22日にかけて、改修予定地の一部を試掘調査することとなった。この期間内の11～15日にかけては大学祭期間のため、安全面を考慮し調査は行わなかった。なお、2004年度もまた、試掘費の計上がなされておらず、やむなく整理作業・調査報告書作成などの一切の業務を停止し、調査室のスタッフ全4名で試掘調査を行なった。

調査地点は、農学部1号館中庭の校舎に沿った2箇所を設定し、それぞれ1トレンチ、2トレンチとした (Fig.1・3)。両トレンチともに遺構は検出されなかった。

1トレンチは、細分層も含め13層に分かれ、ほぼ水平堆積である。6・7層は河川氾濫による粗細砂層であると考えられる。また、12層は泥炭層であり、13層は郡元団地の基盤層となる粗砂層である。2～5層は水田層であると考えられるが、そのうち2層では3点の陶磁器が出土している。中近世以降の時期であると考えられる。

2トレンチもまた、細分層を含めて13層に分かれる。6・7層がやや北に傾斜する以外は、ほとんどの層が水平堆積である。6・7a層は河川氾濫による粗細砂層であると考えられる。また、12層は泥炭層であり、13層は郡元団地の基盤層となる粗砂層である。2～5層は水田層であると考えられるが、1層では先史時代の土器が、5層では土師器、薩摩焼播鉢、中国陶磁器、近代磁器が得られている。8層では近世以降の磁器が出土している。

1・2トレンチに共通する12・13層の状況を比較すると、20cm程度2トレンチが高く、北から南方向

II. 試掘調査

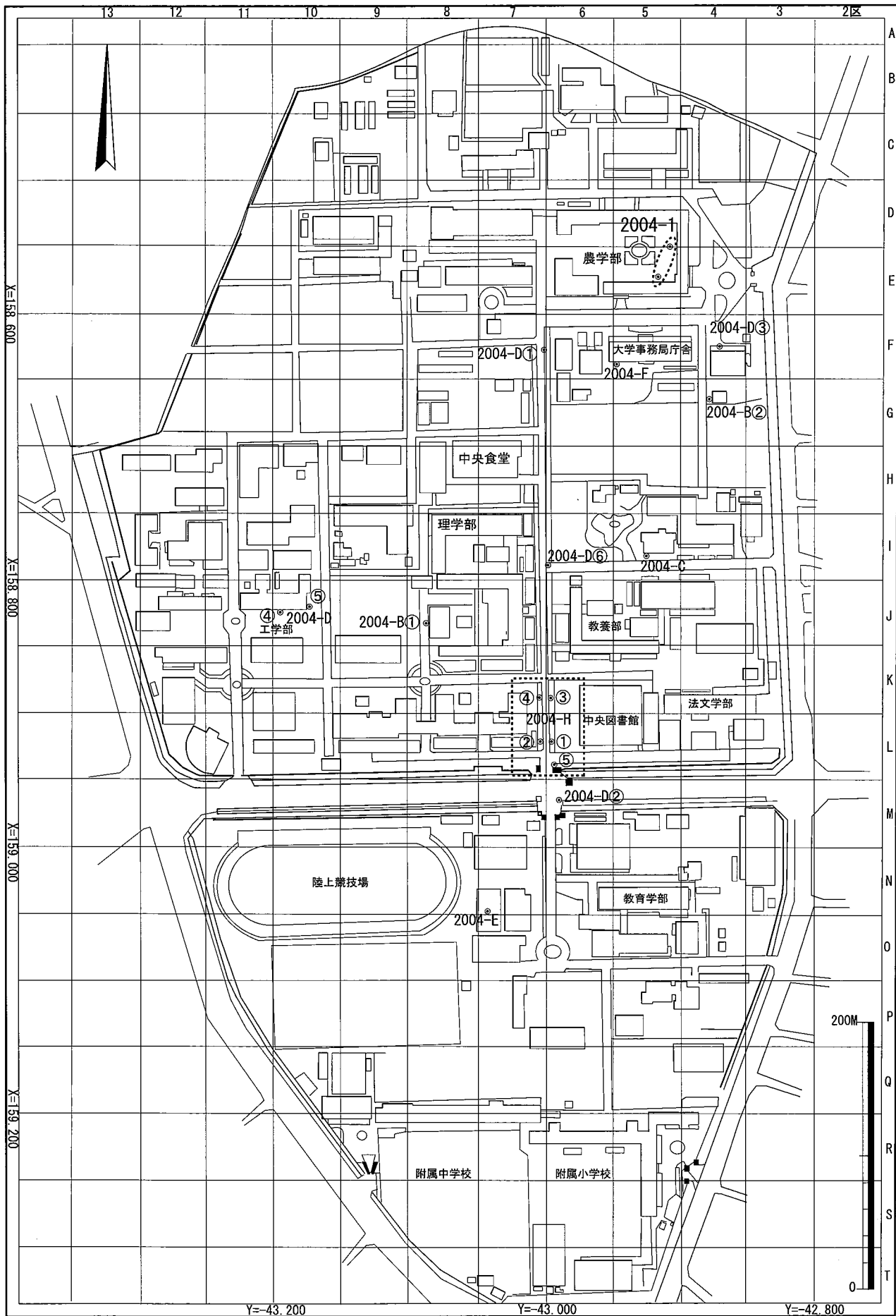


Fig.1 鹿児島大学構内遺跡郡元団地構内図 S=1/4000

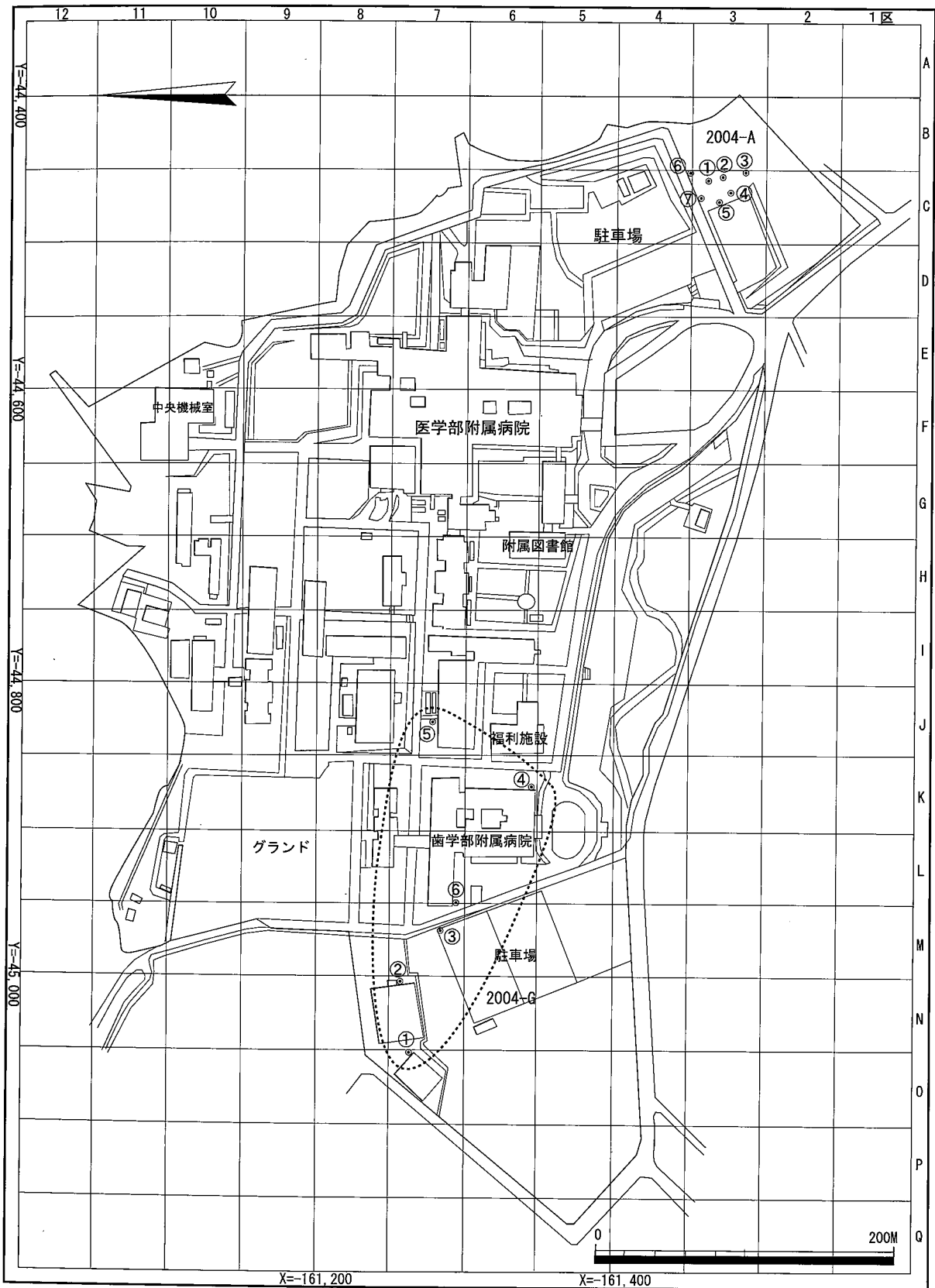


Fig.2 鹿児島大学構内遺跡桜ヶ丘団地構内図 S=1/4000

II. 試掘調査

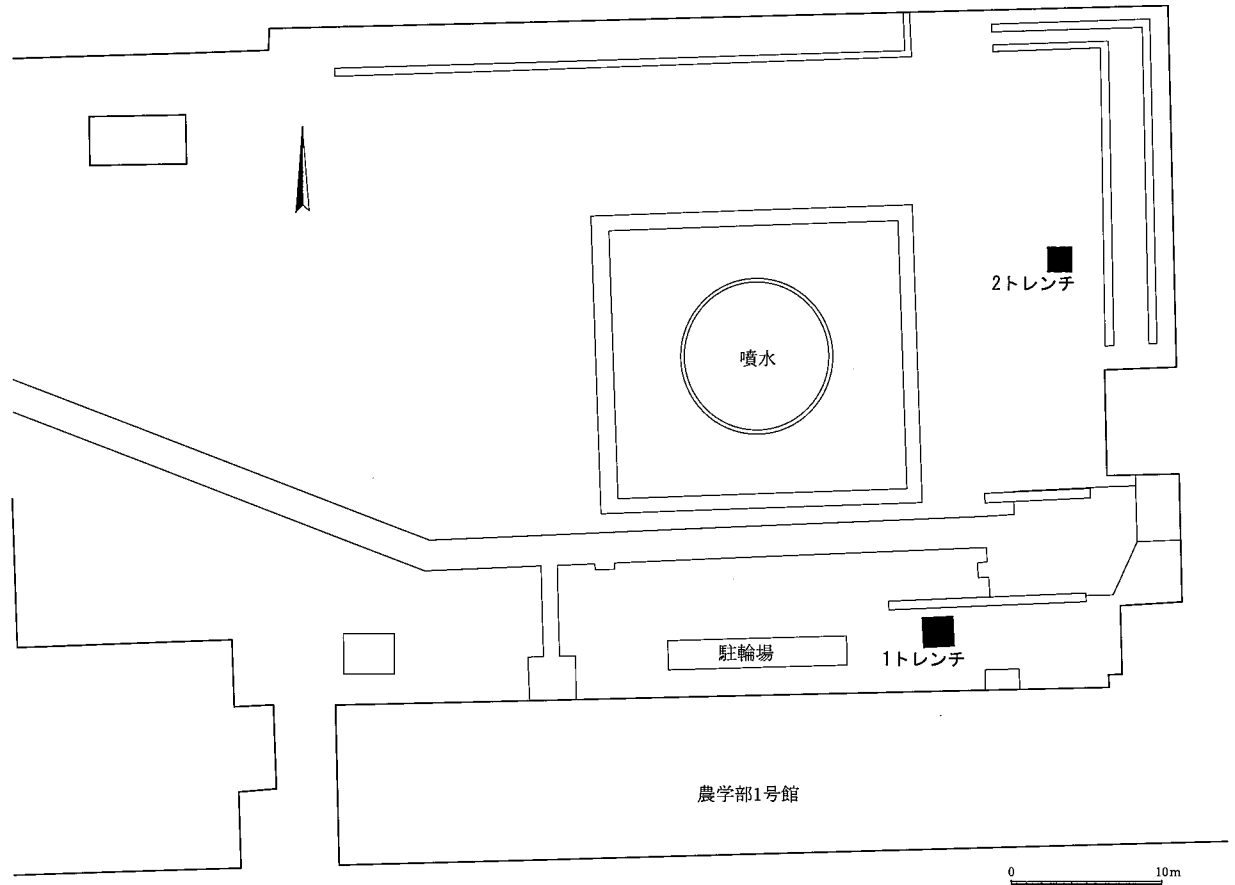


Fig.3 郡元団地 D・E-5 (農学部試掘調査) トレンチ配置図 S=1/500

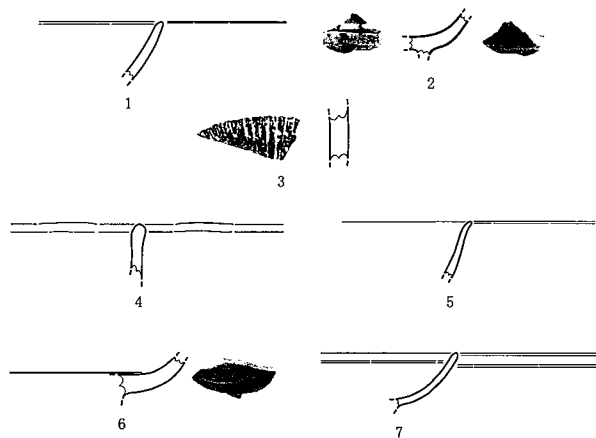


Fig.4 郡元団地 D・E-5 (農学部試掘調査) 出土遺物 S=1/3

Tab.2 郡元団地 D・E-5 (農学部試掘調査) 遺物観察

No.	地区・層	器種	部位	色調	胎土		
					混和材	密度	備考
1	1TR・2層	薩摩焼(加治木・始良系)小皿・18・19c～	口縁部	内外面:にふい赤褐5YR5/4に、口唇部付近は暗赤褐5YR3/4、器内:灰白10YR7/1	細砂:黒色粒	1	
2	1TR・2層	中国青花碗・時期不明	腰部付近	器内:純白(土色粘になし)、釉色:明青灰5B7/1、文様:群青色(土色粘になし)			
3	2TR・5層	薩摩焼(苗代川)播鉢・19c～	胴部	外面:灰褐7.5Y5/2、内面:にふい赤褐5YR5/4、器内:にふい赤褐2.5YR5/4、釉色:5YR5/4	細砂:白色粒、黒色粒	1	
4	2TR・5層	土師質土器(焙烙?)	口縁部	外面:黒5Y2/1、内面:橙5YR7/6、器内:浅黄橙7.5YR8/4	細砂:黒色粒、白色粒	1	外面がスズで覆われる。器面調整:両面:(?)ナデ。
5	2TR・5層	口剥白磁坏・中国徳化窯の可能性あり	口縁部	器内:純白(土色粘になし)、釉色:透明			
6	2TR・8層	染付皿?・近世以降	口縁部	器内:純白(土色粘になし)、釉色:青みがかった白(土色粘になし)、文様:群青色(土色粘になし)			二次的に受熱している可能性あり。

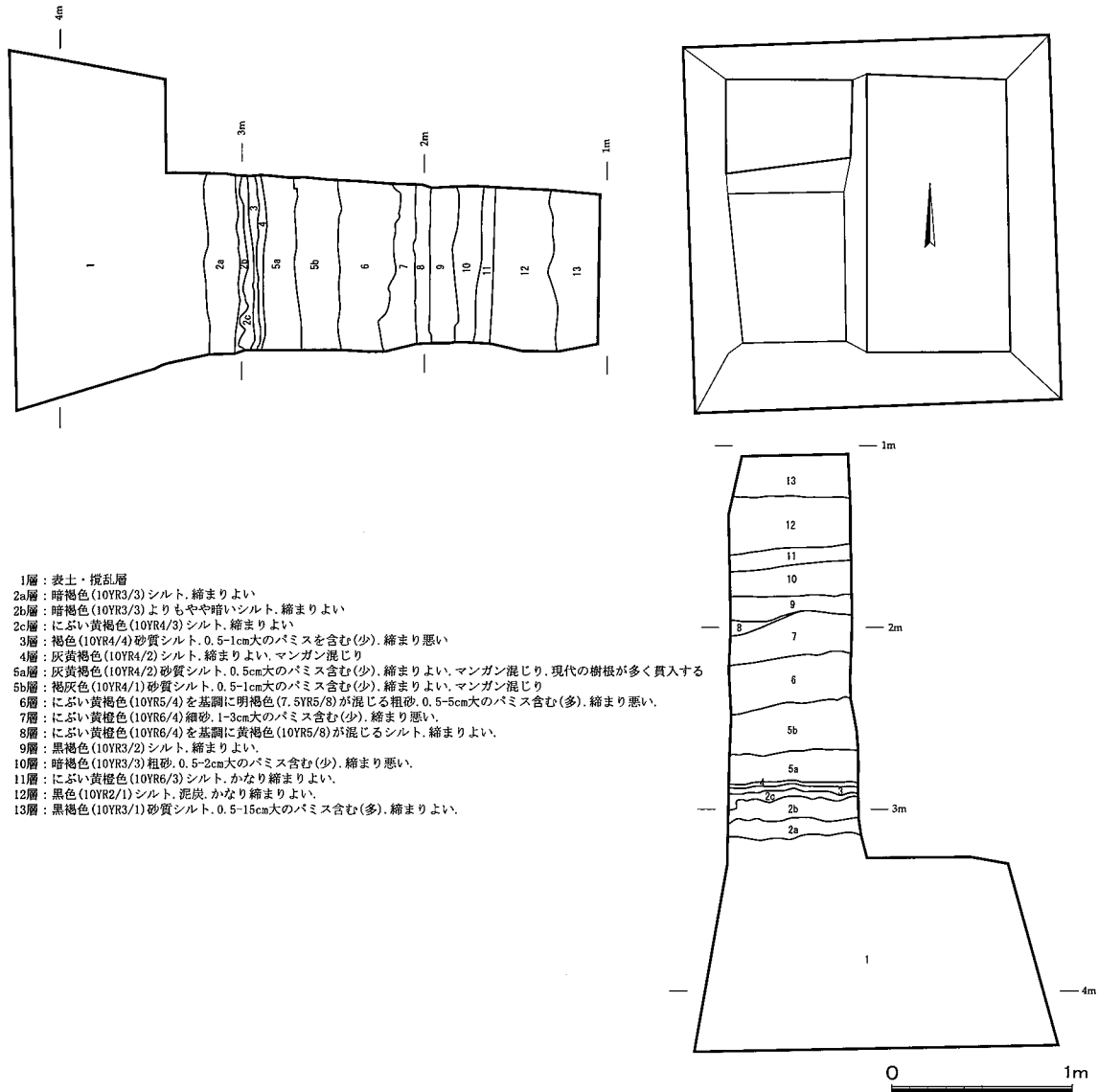
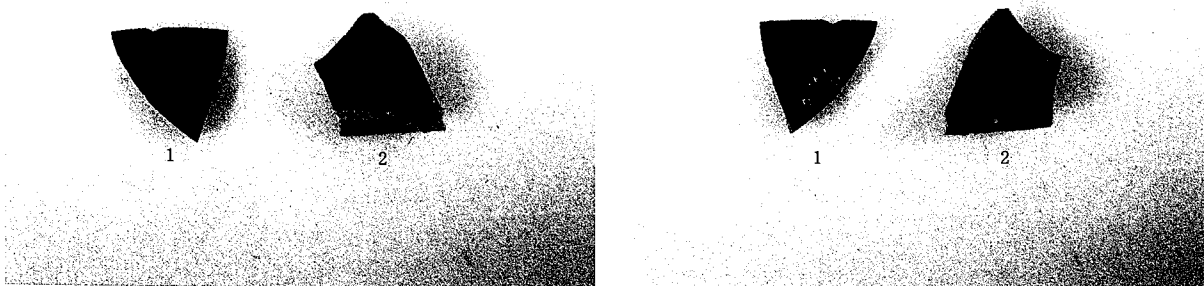


Fig.5 郡元団地 D・E-5 (農学部試掘調査) 1トレンチ S=1/40



PL.1 郡元団地 D・E-5 (農学部試掘調査) 1トレンチ出土遺物
 左: 外面 右: 内面

II. 試掘調査

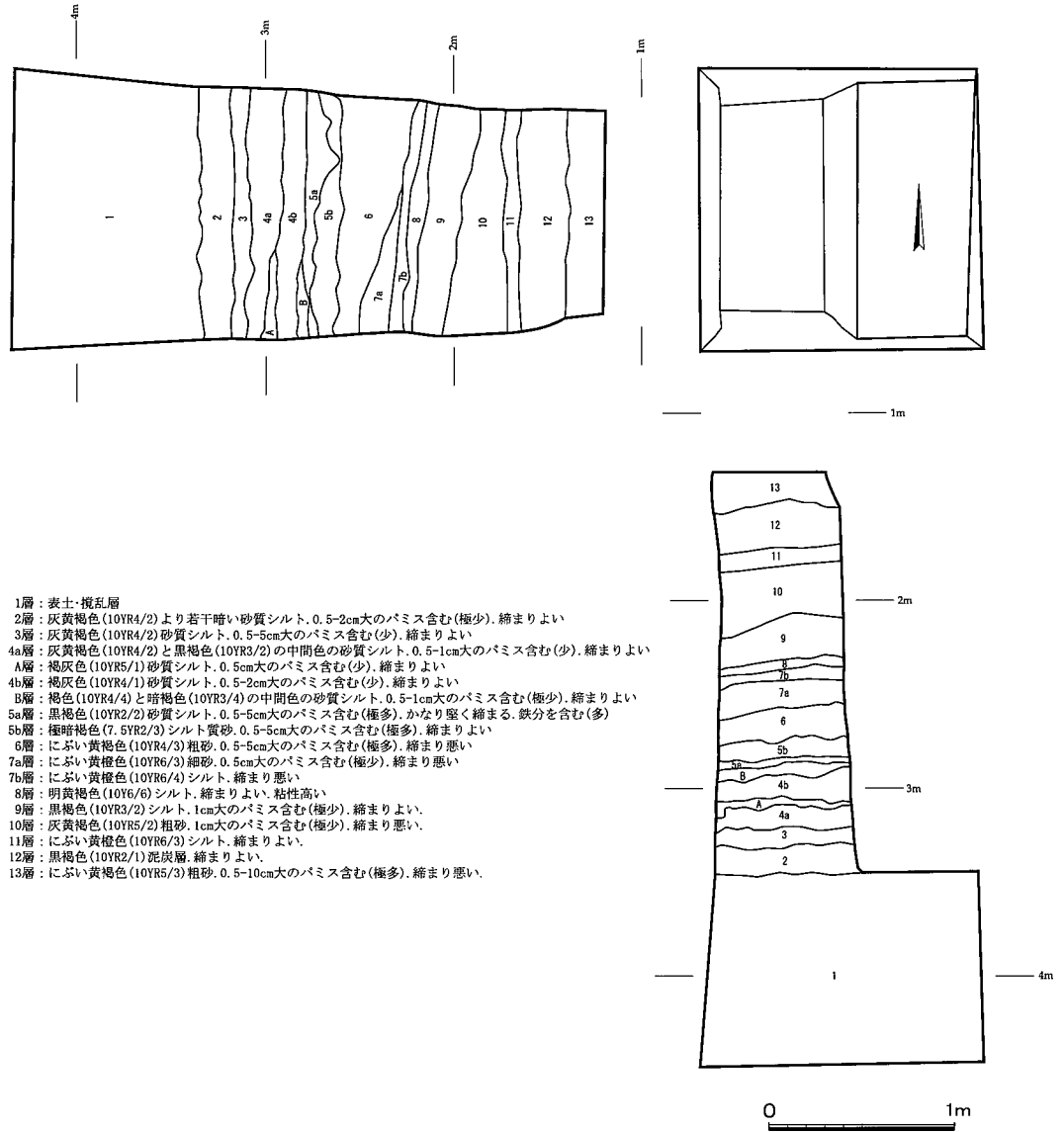
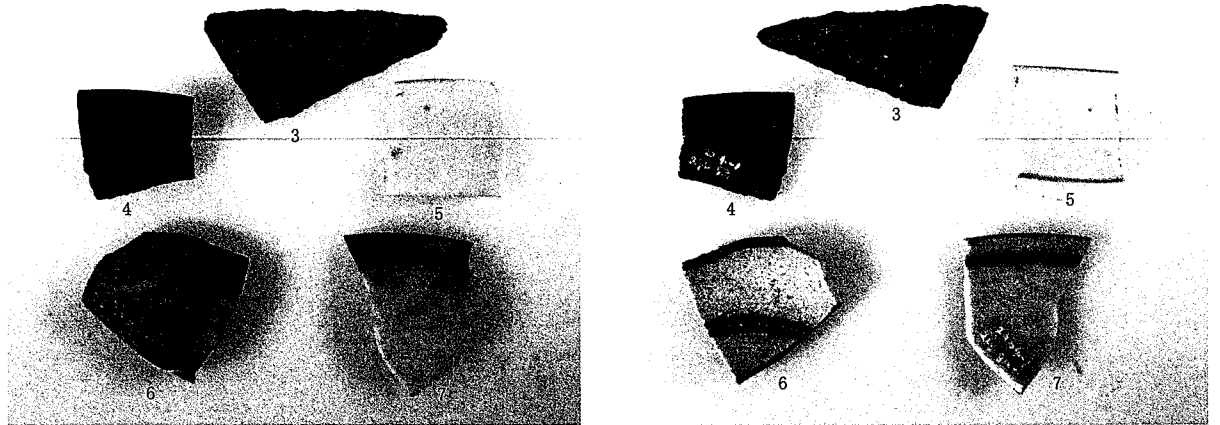


Fig.6 郡元団地 D・E-5 (農学部試掘調査) 2 トレンチ S=1/40



PL.2 郡元団地 D・E-5 (農学部試掘調査) 2 トレンチ出土遺物
 左：外面 右：内面

へわずかに傾斜する旧地形を見ることができる。

数点の遺物のうち、図化できるものは土師質の土器、中近世以降の陶磁器である (Fig.6・PL.1・Tab.2)。

遺物からみれば、1・2トレンチともに土層は類似しており、8層以上の土層は、近世以降であると捉えることができる。

III. 立会調査

2004 (平成14) 年度より、鹿児島大学の独立行政法人化に伴い、立会調査は鹿児島市教育委員会によって行われることとなった。文化庁・鹿児島県の協議・調整により、9月から実施されることとなり、立会調査において、埋蔵文化財調査室は、これまでのデータの蓄積を用いて、市教育委員会の協力を行う。

2004 (平成16) 年度の立会調査は、郡元団地6件、桜ヶ丘団地2件の計8件実施した (Fig.1・2構内図)。これらのうち、2004-B・C・E~H立会調査については、工事掘削部が表土・攪乱層の範囲内でおさまり、埋蔵文化財への影響がなかった。以下、プライマリーな包含層が確認された地点のみ、調査地点ごとに説明する。

1. 2004-A 鹿児島大学病院第二患者駐車場増設工事 (Fig.2・7, PL.5)

鹿児島大学病院において、第二患者駐車場の増設工事が行われることとなり、立会調査を実施した。駐車場は東側山側拡張部である。地形を考慮しつつ、計7箇所の調査地点を設定した。各地点の土層の状況から、桜ヶ丘団地の基本土層は確認できず、どの層も汚れたような土壌であり、柔らかい層が多く、遺物の出土も全くなかった。それらのことから、深い谷地に自然に二次堆積した土層であると判断した。

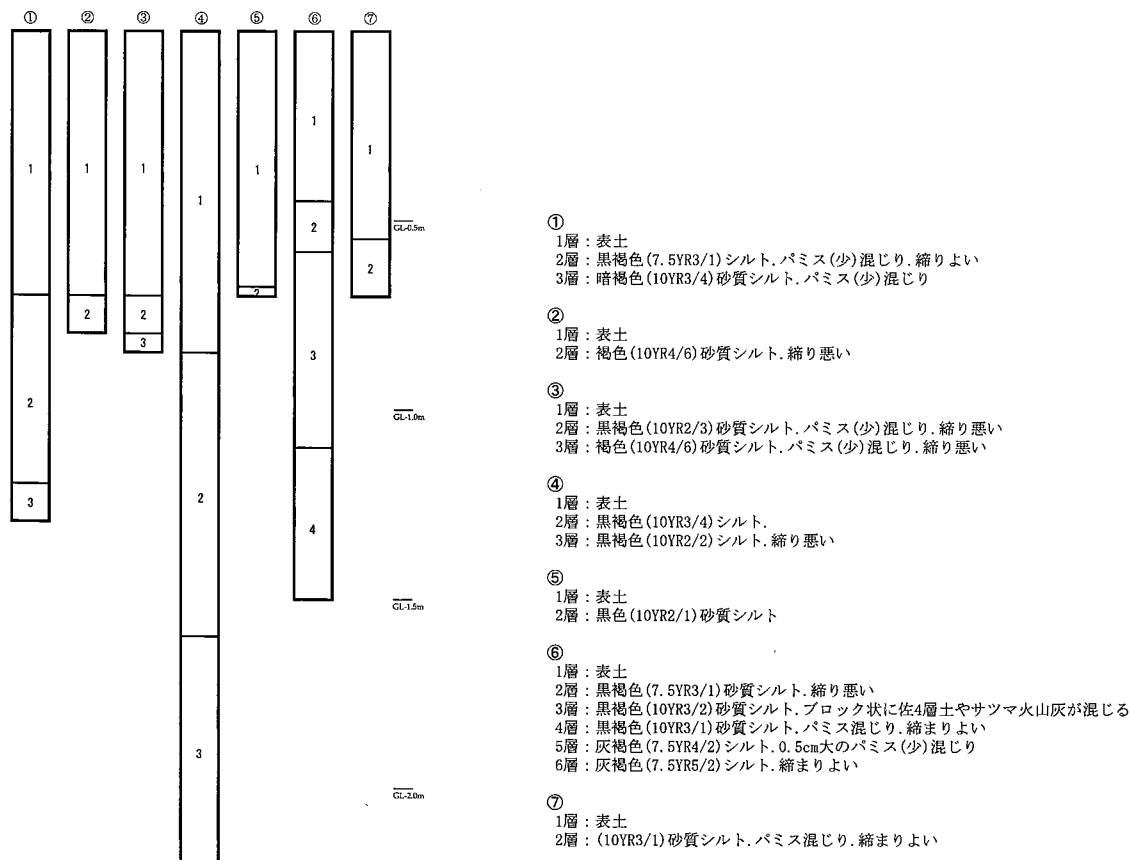


Fig.7 2004-A立会 土層柱状図

III. 立会調査

2. 2004-D 鹿児島大学本部地区ガス漏れ修繕工事

(Fig. 1・8, PL.7)

鹿児島大学郡元団地内においてガス漏れの検査があり、数箇所のガス漏れが確認された。ガス漏れ修繕の場合、緊急の対策であるため、県との協議の上、調査室のみで立会に当たることとなった。ほとんどは既掘部であったが、④と⑤掘削坑の2箇所でプライマリーな包含層が確認された。土層は近現代の水田層に類似していたが、性格は不明である。

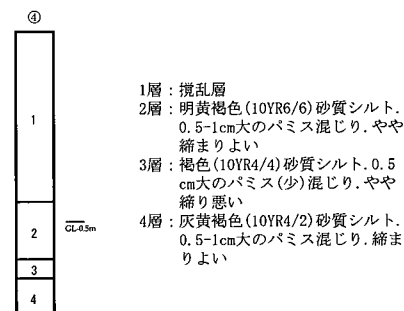


Fig. 8 2004-D立会 土層柱状図

IV. 遺物整理

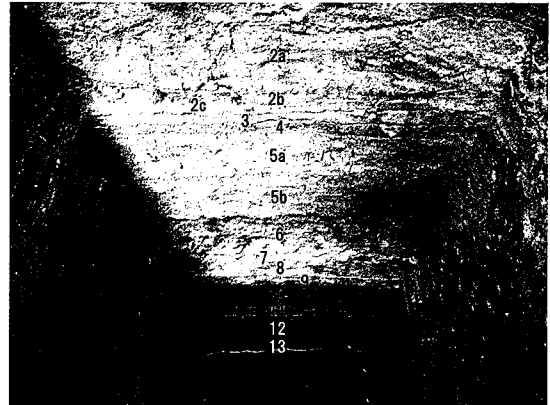
2004(平成14)年度の年報19作成のための、遺物整理作業ならびに凶化作業を行った。整理作業は、93-1郡元団地 K-6(中央図書館増築地)二次調査 C 地点、95-1郡元団地 K-5(中央図書館増築地)三次調査 D・E 地点の遺構出土遺物である。また、遺物包含層出土遺物については、一部の整理が行われており、2005年度も継続して整理・凶化作業を行う。

V. 年報作成

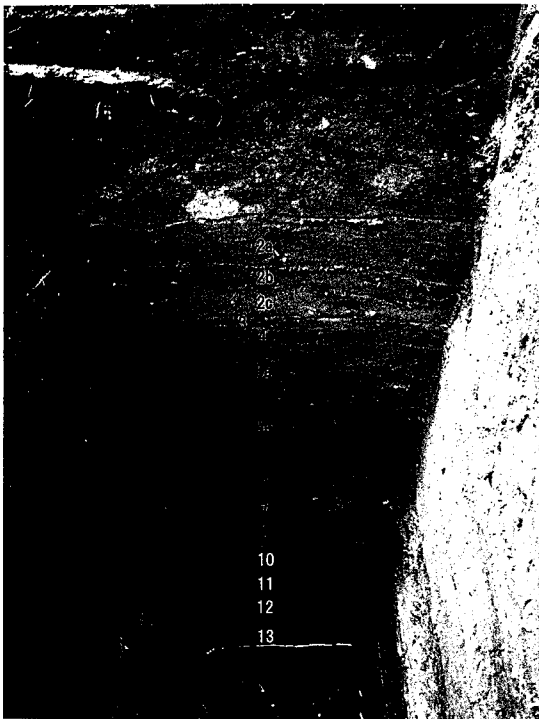
2004(平成14)年度に埋蔵文化財調査室年報19を刊行した。発送は2005(平成17)年度4月に行った。



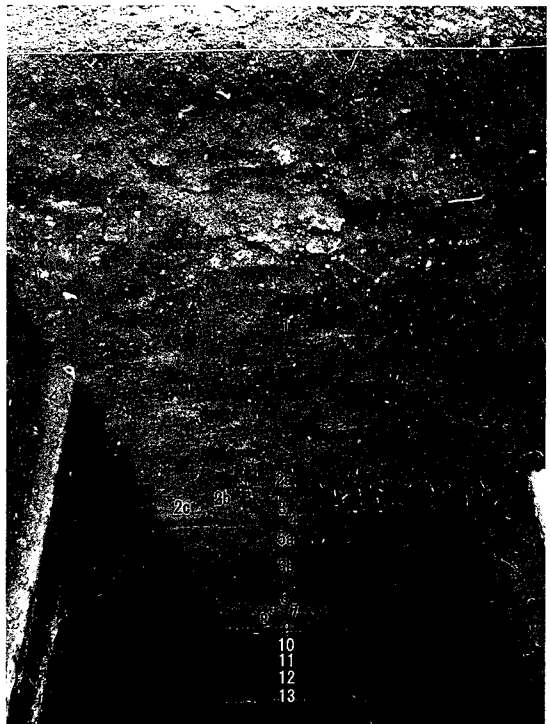
試掘1トレンチ掘削場所



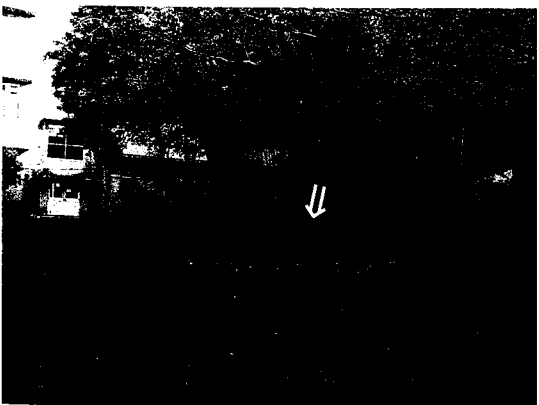
試掘1トレンチ西壁(1)



試掘1トレンチ南壁



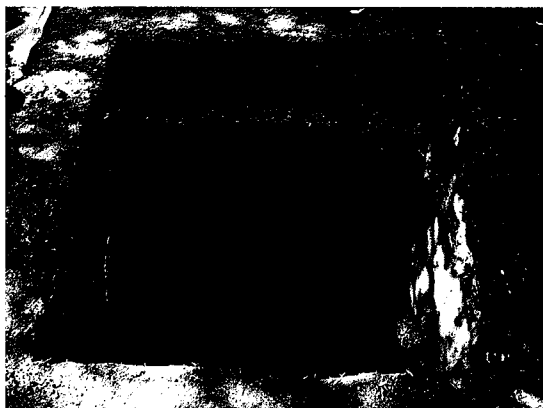
試掘1トレンチ西壁(2)



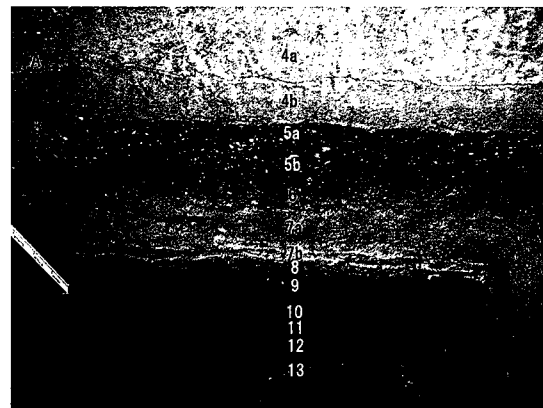
試掘2トレンチ掘削場所(1)



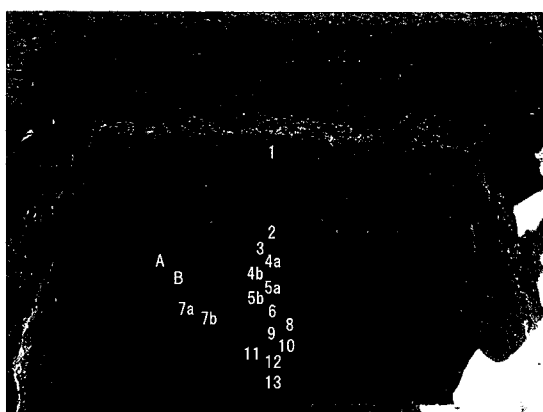
試掘2トレンチ掘削場所(2)



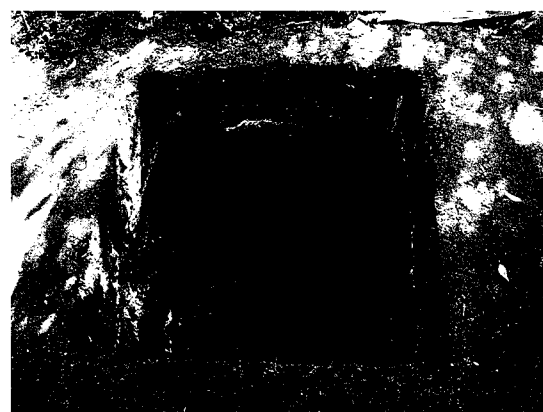
試掘2トレンチ西壁(1)



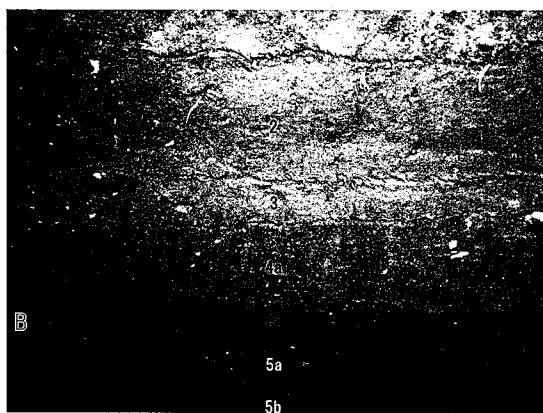
試掘2トレンチ西壁(4)



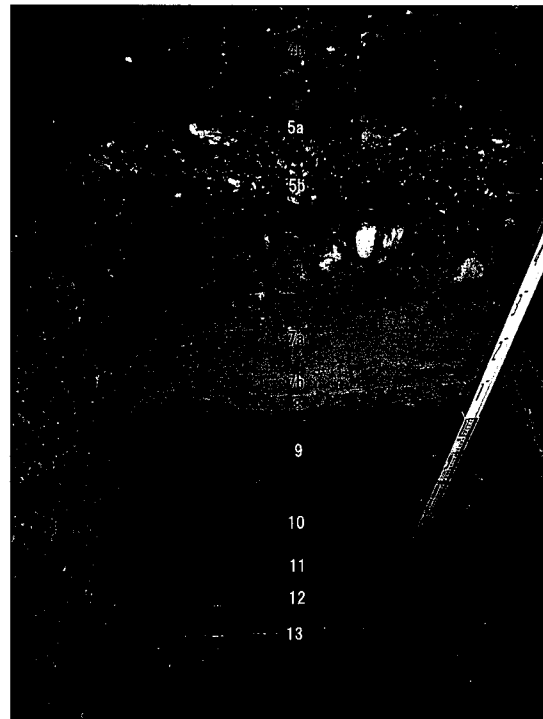
試掘2トレンチ西壁(2)



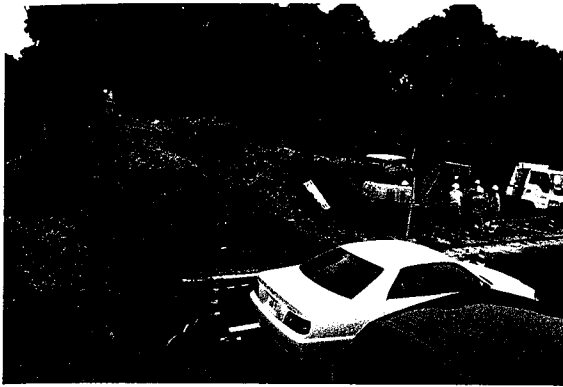
試掘2トレンチ南壁(1)



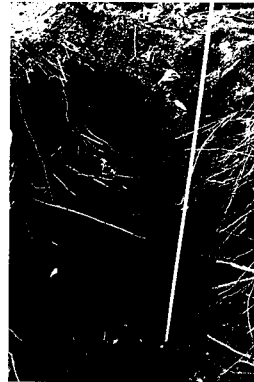
試掘2トレンチ西壁(3)



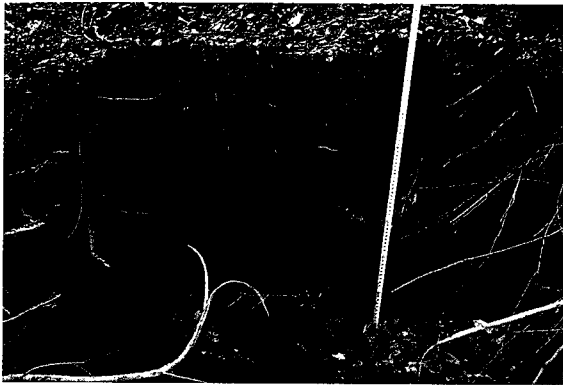
試掘2トレンチ南壁(2)



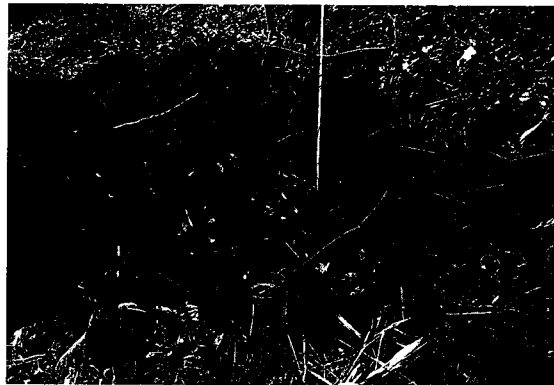
2004-A 調査区全景(西より)



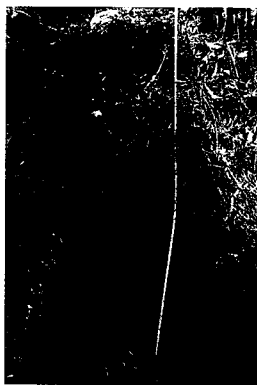
2004-A ①北壁



2004-A ②東壁



2004-A ③東壁



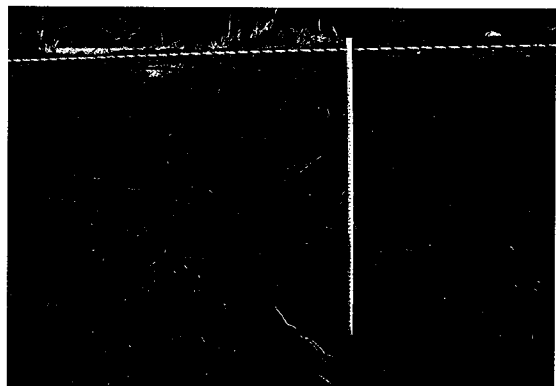
2004-A ④東壁



2004-A ⑤東壁



2004-A ⑥北壁



2004-A ⑦北壁

PL.5 立会調査(1)

V. 年報作成



2004-B 金鉱石移設前①



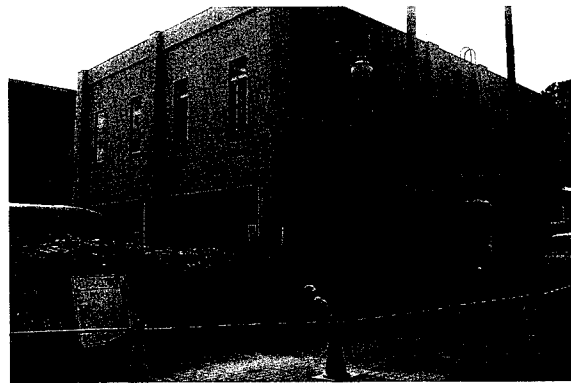
2004-B 金鉱石移設先②



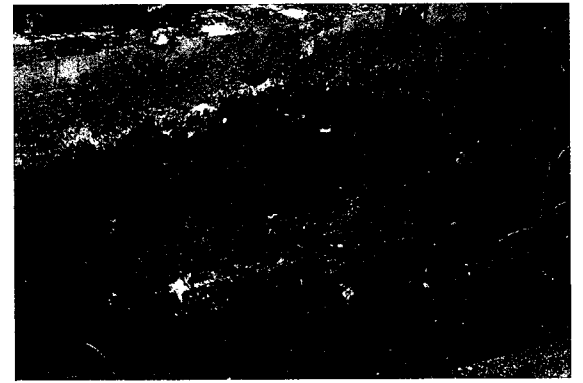
2004-C



2004-C



2004-D ①



2004-D ①

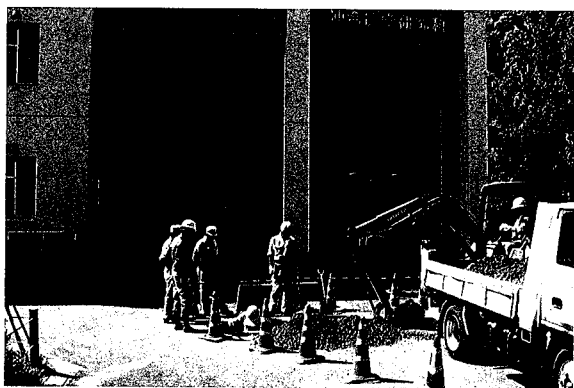


2004-D ②

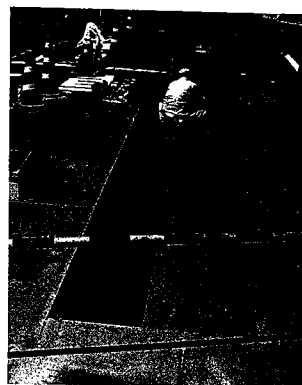


2004-D ②

PL.6 立会調査(2)



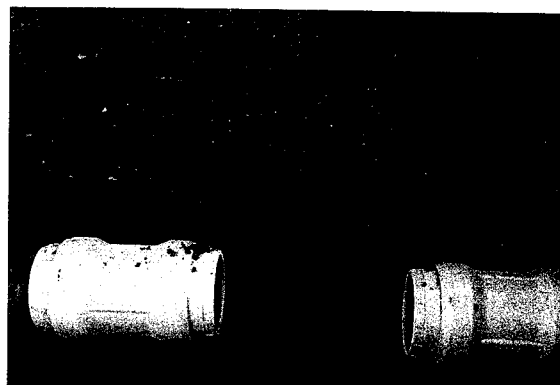
2004-D ③



2004-D ③



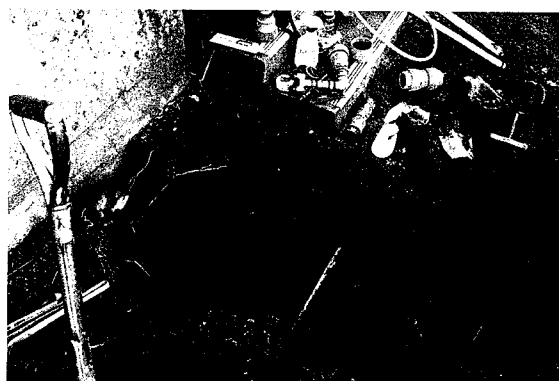
2004-D ④



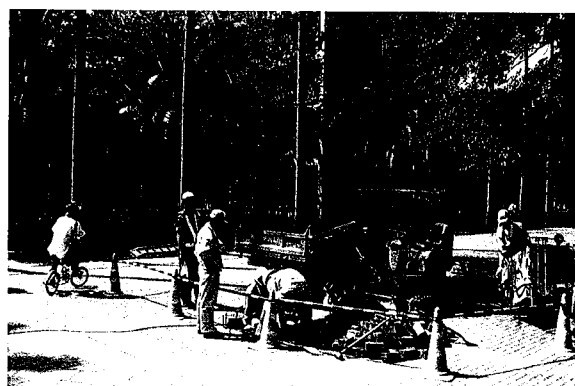
2004-D ④南壁



2004-D ⑤



2004-D ⑤



2004-D ⑥



2004-D ⑥

PL.7 立会調査(3)

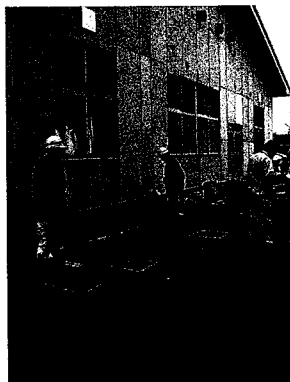
V. 年報作成



2004-F



2004-F



2004-G ①



2004-G ①



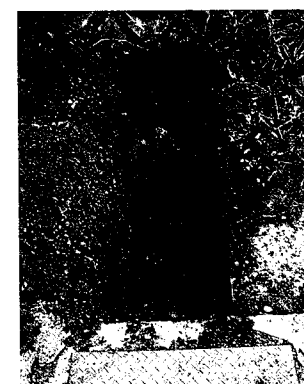
2004-G ②



2004-G ②



2004-G ③



2004-G ③

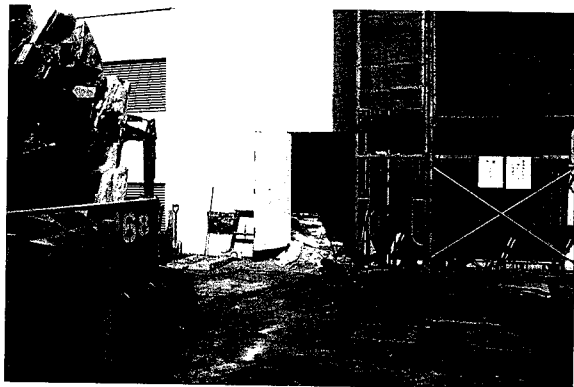
PL.8 立会調査(4)



2004-G ④



2004-G ④



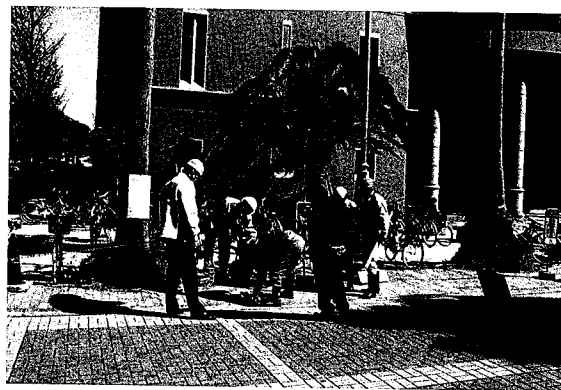
2004-G ⑤



2004-G ⑤



2004-H ①



2004-H ③



2004-H ⑤



2004-H ⑤

PL.9 立会調査(5)

鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報20

2005年7月発行

編集・発行 鹿児島大学埋蔵文化財調査室

鹿児島市郡元一丁目21-24

TEL 099-285-7270

印刷 (株) トライ社

鹿児島市南林寺町12-6

TEL 099-226-0815

Kagoshima University Research Center for Archaeology Report Vol.20

CONTENTS

Chapter

- | | | |
|---|--|---|
| 1 | Report of archaeological research in fiscal year 2004 | 3 |
| 2 | Report of test excavation at Area D·E-5 in Korimoto Campus | 3 |
| 3 | Report of rescue surreys | 9 |

Published by
Kagoshima University Research Center for Archaeology
2005